

## 2025年度 第1回公立大学法人大阪経営審議会議事要旨

日時：2025年6月30日（月）15時00分～16時40分

場所：UR森之宮ビル3階 公立大学法人大阪役員会議室（大阪市城東区森之宮1-6-85）

※Web会議システムを併用して実施

出席者：（外部委員）池田委員、土屋委員、鳥井委員、中野委員

（内部委員）福島理事長、櫻木副理事長、酒井理事、丸尾理事、高橋理事、徳永理事、重松理事、中村理事

### 【冒頭】

新たに就任した中野委員、櫻木副理事長、丸尾理事、徳永理事の紹介及び挨拶があった。

### 【審議事項】

#### 1. 2024年度決算・財務諸表等

吉岡財務部長より説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

<ご意見等>

（中野委員）

新聞報道等では多くの国立大学病院で赤字が発生しているようだが、もう少し利益を追求することはできないか。例えば、富裕層向けの医療ツーリズムや人間ドックなど。今後大阪にはIRも誘致されるので、海外の富裕層が増加すると思われる。そうしたことで、利益を増やしていかないと研究費等が支出できないのではないかと思う。どのように考えているか。

（中村理事）

ご指摘いただいたように健診施設のMedCity21にてインバウンド層の取り込みを図っている。全国的な傾向として物価、委託費の高騰や人件費のベースアップがある。我々には保険診療点数に基づく収入しかなく、その範囲内で最高の医療をすることが我々公立大学病院に求められており、尽力するつもりではあるが構造的に難しいところがある。前年度比で稼働率や入院収益は改善しているので、引き続き尽力していきたい。さらに収入を増やし、経費を少しでも削減していきたい。

（福島理事長）

補足すると、報道によると全国の国公立大学が大体7割から8割は赤字と言われている。それに甘んじるわけではないが、なかなか構造的な問題がある。個人的な意見だが、この構造的な問題は一朝一夕ではなかなか解決できない。

#### 2. 第1期中期目標期間に係る業務実績報告書

森岡企画部長より説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

（土屋委員）

評価方法の仕組みが、非常に機械的な評価項目であり、中身としてどのくらい深みのある実績だったのかが重要な項目もあると思う。特に（5段階評価が）4、5を示している項目の中で、目標回数達成はもちろんのこと、質的にも極めて高い実績を上げ、中身も誇れるものはあれば教えてい

ただきたい。

(酒井理事)

私の心象としては、例えば戦略的広報。これは評価が難しく、露出度と言う点では大阪大学や京都大学にはまだ負けてはいるが、ブランド戦略をしっかりと打ち立てられた。海外への研究論文の発信や、予算的な制約もある中で選択と集中をしたマスコミの活用。読売新聞社、日経新聞社、NHKなどとのタイアップ企画などをしながら発信も行った。自画自賛だが、広報戦略担当の課長含めてよく頑張ってもらった。この勢いをさらにスピードアップ、ボリュームアップしていきたい。

(福島理事長)

定量的に見るのはなかなか難しいが、やはり大学の本丸は研究だ。

(櫻木副理事長)

数字で出てくるものは多くはないが、若手の優秀な研究者が活躍することが非常に重要である中、例えばサイエンスとかネイチャーといったトップ論文を書くような研究者は出てきている。また、そういう業績を大学としても支援すべく、論文のオープンアクセスや評価につながるものへの支援を、戦略予算をつけて強化していく取組を行った。これは第2期中期計画期間にも繋がるが、それが国際化や、先ほどあった戦略的広報という意味でも、大学のプレゼンスを高めていくことに繋がる取り組みを行った。

第2期中期計画期間では、アウトプットではなくてアウトカムとして何をやるかということを目標に掲げているので、しっかりと結果を出していきたい。

(土屋委員)

評価基準に示されているように、回数や頻度が目標の中心になっている。それは当然守らないといけないが、ストレスのところで2だが中身が充実しているから3だというような中身を含めた評価もあっていい。

(高橋理事)

第1期中期目標期間では中期計画等の達成度に当たるのが、いわゆるPDCAの「D o」の部分で、何回何をやったかという部分が多かった。すると、回数を3回のところ4回実施した、130%だから評価が5だというような評価になってしまう。そのため、第2期に関してはできる限りアウトカム指標にした。数も大幅に減らし、なおかつチャレンジ指標として普通ではなかなか達成できない非常に高い目標も計画の中に盛り込んだ。このように第2期中期目標期間に関しては、アウトプットをした結果として、アウトカムがどうなったかが見える計画評価に変えているので、経営審議会でもまた御審議いただきたい。

## 【報告事項】

### 1. 2025年度入試一般選抜(学部・学域)

高橋理事より説明がなされた。

<ご意見等>

(土屋委員)

エリアごとの変化の数字を見ると大変興味深い。特に狙いどころ、集中的に力を入れたいエリア

はあるのか。もしそういうことがあれば、具体的に何か考えていることはあるのか。

(高橋理事)

志願者数を増やすという観点では、中国・四国地方に関しては十分余地はある。これも学部等によるが、関西大学と一緒にやっている説明会等も最近ほぼ満席で、大阪公立大学の知名度はかなり高まったと感じている。地理的にも比較的関西に近い。

北陸については東京の方が新幹線で1本であり、金沢あたりでも関西より東京を見てしまうので少し苦戦しており、そこまで頑張っても効果はどうか。

あとは、どうやって全国区を狙っていくか。一般入試だけでは、共通テストや偏差値で決まってしまう傾向があるので、特別選抜等を特色ある形で実施していくことで、全国的に志願者を集めたいと思っている。

(中野委員)

来年度から大阪府民は授業料が全て無料になり、そうすると受験者がどこから来るかなども大きく変わってくると思うが、どのように予想されているのか。例えば、医学部などは授業料無料で医師になれるなら、偏差値が急激に上がるのではと思うが、その対応などは。

(高橋理事)

結局は偏差値で判断し、可能性の低い大学は受験しない。特に前期日程は、不合格だと浪人になるため、合格判定でB以上でないといけない傾向がある。いくら無償化になっても合格してこそであり、志願者数はそこまでは増えないというのが現状の予測である。

(福島理事長)

個人的な見解だが、大阪大学と大阪公立大学を志望していて、あまり偏差値が変わらなければ、無償化される本学に来る可能性は高いかもしれない。基本的にはフォローであることは間違いない。

(土屋委員)

この数年、愛知はかなりパーセンテージが増加している。特に力を入れたことはあるのか。

岡山なども非常に可能性が広いのではないかと思う。大学の知名度を上げていくと同時に、もう少し集中的にその地域にPRする考えはないか。

(高橋理事)

愛知は、中期日程に名古屋会場等を設けており、ターゲット校を作って高校訪問も実施。よって今後も一定の割合で増え、さらに志願者を集められる。広島、岡山、福岡あたりも説明会等が予約で埋まっており、伸びる余地は十分あると思っている。引き続き広報もしていきたい。

(福島理事長)

18歳人口が減っており、中長期で見れば色々課題はあると思うが、ぜひこの勢いで、優秀な学生に多数受験いただけるよう、このような戦略で進めていきたい。

## 2. 2024年進路・就職状況

高橋理事及び山本高専事務部長より説明がなされた。

<ご意見等>

特になし。

### 3. 共創プロジェクトの進捗

重松理事より説明がなされた。

<ご意見等>

(鳥井委員)

大阪商工会議所に入ってから中小企業を30数社回っているけれども、やはりニッチな技術や市場を見つけ、大企業が取り込めないところを抑えている企業は成長しているし、利益率も高く、生き残っていけると感じる。企業のニーズと大学のニーズが必ずしも合わないところもあるが、ニッチなものを俯瞰的に探すような取り組みが必要ではないか。

(重松理事)

これらの設立支援制度、事業化加速支援制度というのは、現在の立ち位置からどのように社会課題を解決していくかという未来発展を志向するものだと考えている。現状課題を見つめて探すのもひとつだが、バックキャスト的な志向を取るとニッチなところが見えやすいかと考えている。

以上